

要 約

報 告 番 号	① 乙 第	号	氏 名	船 木 桂
主 論 文 題 名				
Can we predict amyloid deposition by objective cognition and regional cerebral blood flow in patients with subjective cognitive decline? (自覚的認知機能低下患者における、客観的認知機能検査、脳血流シンチグラフィを用いたアミロイドβ蛋白蓄積の予測)				
(内 容 の 要 旨)				
<p>アルツハイマー病 (Alzheimer's disease : AD) は認知症の半数以上を占めるが根本的治療法は未だない。現在は、ほとんど認知機能低下のないADハイリスク者を対象とした、早期介入による発症予防を標的とする治験が行われている。</p> <p>軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment : MCI) はADハイリスク群として広く知られているが、さらに前段階である自覚的認知機能低下 (Subjective Cognitive Decline : SCD) もハイリスク群として注目されている。SCD、アミロイドβ蛋白 (Beta-amyloid : Aβ) と認知機能の関連性を縦断的に調べた先行研究では、SCDかつAβ陽性者が最も認知機能低下が顕著であった。すなわち、SCDにおけるAβ陽性者を同定することは臨床的に重要である。Aβ蓄積はアミロイドPET (Positron Emission Tomography) で判定できるが、費用や設備、侵襲などから研究使用に限定されるため、日常臨床で行われている検査所見からSCD患者におけるAβ蓄積が予測できれば有用である。</p> <p>本研究では、SCD患者におけるAβ蓄積の有無と神経心理検査、精神症状評価、SPECT (Single photon emission computed tomography) 脳血流所見との関連を調査することを目的として横断研究を行った。</p> <p>認知機能低下を自ら訴え当院メモリークリニック、精神・神経科外来を受診し、Mini Mental State Examination (MMSE)、ウエクスラー記憶検査の論理記憶 (Logical Memory)、Clinical Dementia Rating (CDR) が正常範囲であったSCD患者42名 (女性22名、平均年齢 74.5±4.7歳) を対象とした。¹⁸F florbetabenをトレーサーに用いてアミロイドPETを施行し、対象をAβ陽性群 (10名)、陰性群 (32名) の2群に分けた。またADの遺伝リスク因子であるアポリポタンパク質E (Apolipoprotein E : APOE) 4の有無を採血にて調べた。評価項目は、聴覚記憶、視覚記憶、注意機能、遂行機能、語想起能力などを測る神経心理検査、自覚的認知機能低下の強さを表すMemory Complaint Questionnaire (MAC-Q)、不安・抑うつ、アパシーなどを測る精神症状評価、SPECT脳血流所見とした。統計学的手法としては、予備解析としてt検定を用いて各評価項目の群間比較を行った。主解析として、Aβ蓄積の有無を従属変数、人口統計学的特徴とt検定で有意な群間差 (P<0.05) を認めた項目を独立変数として二項ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>両群の人口統計学的特徴では教育歴、APOE4を含め有意差を認めなかった。t検定では論理記憶の直後再生-遅延再生/直後再生では、Aβ陽性群で有意な成績低下を認めた (P=0.04)。しかし、二項ロジスティック回帰分析ではAβ蓄積と有意に相関する因子を認めなかった。</p> <p>本研究では認知機能低下を訴え自発的に診療機関を受診したSCD患者を対象に、詳細な神経心理検査、精神症状尺度、SPECT脳血流所見を解析したがAβ蓄積の有無を臨床所見から予測することが出来なかった。臨床場面ではSCD患者を対象に脳画像検査を始め種々の検査がなされているが、臨床検査所見よりSCDにおけるADハイリスク群を絞り込むことは困難である可能性が示唆された。今後、対象数を増やし、縦断的評価を行うなど更なる検証が必要と考える。</p>				